

第7回

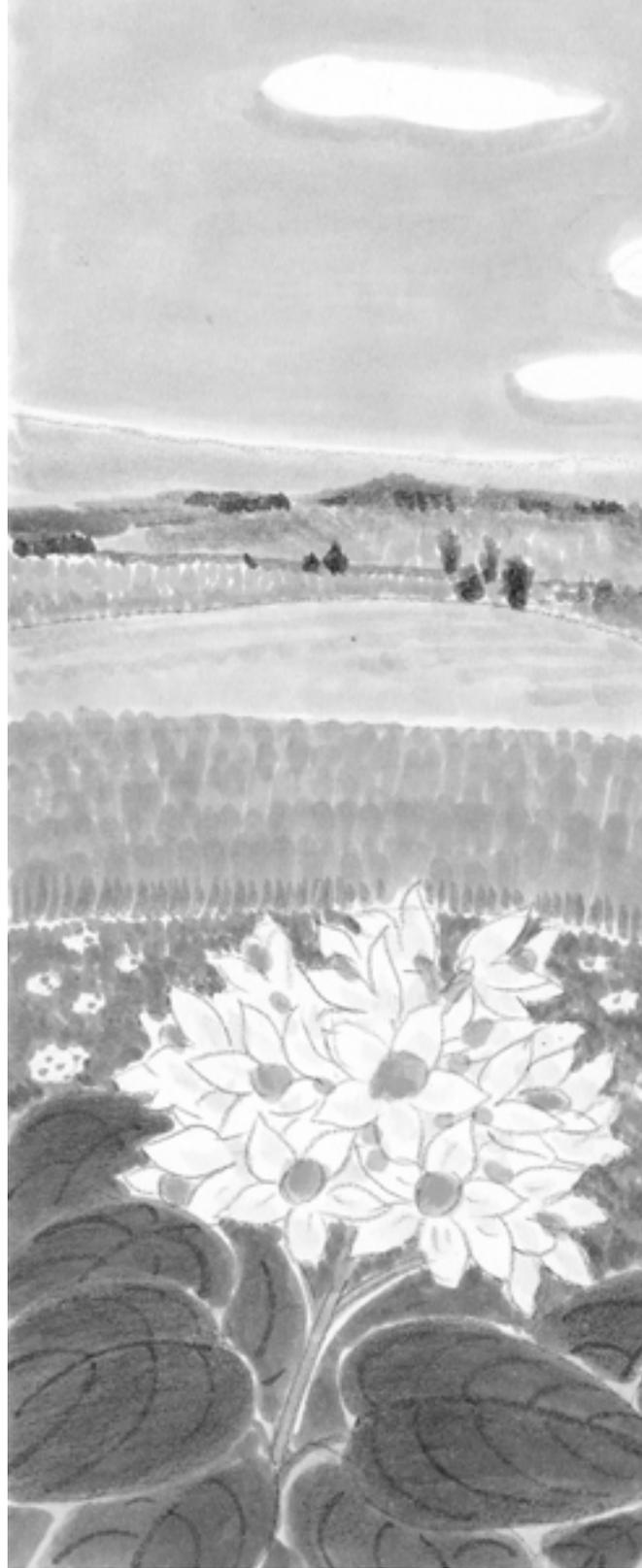
自然と人の営みが 長い年月をかけて作り上げた 風景の美しさ

なだらかな丘陵が続く美瑛。柔らかな曲線にあわせて、広がる作物ごとに違う色合いになる畑は、まさしくパッチワークのように見える。私たちの目を楽しませて、景観の美しさを醸し出しているのは、この畑の存在が大きい。当たり前だけど、その畑は自然が作り出すものではなく、人の手で作り上げてきたものだ。長年に渡って黙々とこの地を耕し、作物を作り続ける農業者のおかげで、この風景が生み出されているのだ。

この風景には人の仕事の美しさと、この土地に対する愛情がたっぷり込められていて、それが人を魅了してやまない風景となっているのだ。風景を眺める度に、苦労をいとわず日々の仕事を続けてきた人々から、私たちは素晴らしいプレゼントを受け取っているのである。

先日、美瑛に行った時「高齢化が進み、栽培に手間のかからないそばに転向する人も増え始め、一面そばになってしまえば、この美しい景観を保てなくなってしまふ」と現地の方の声が聞こえてきた。その一方で、たとえばレストランで小麦畑を作る、農業者と力を合わせて作物作りに取り組むなど、新しい動きも感じられる。この風景が町の財産であれば、農業者だけではなく町の人たちみんなで考えることなのかもしれないと、ふと思った。

ジャガイモの花が揺れる初夏は美瑛に行くのに良い季節。丘を巡り、風景を見渡す。眼前にはここならではの壮大な景色が広がり、いつまでもいつまでも行^{たず}んでいたくなってしまう。レストランや食堂では地元のおいしいものを食べ、身も心もふかふかになる。そんな癒しを与えてくれる、この風景とおいしい食べ物を作り続けてきた農業者に、とにもかくにも感謝したい。



すずき もも

イラストレーター・絵本作家/スローフードさっぽろリーダー

東京生まれ、北海道夕張育ち。広告や雑誌、カレンダーなどのイラストを描くほか、イラストで綴る町案内の本や絵本などを執筆。代表作に「さっぽろおさんぽ日和」（北海道新聞社）、近著に絵本「はるとなつはたけのごちそうなーんだ？」（アリス館）と今年1月に出版した「おいしい大地、北海道」（イースト・プレス）がある。また、「スローフードさっぽろ」を2016年に立ち上げ、食を中心に環境や暮らしの大事に取り組んでいる。モットーは4つのS。「Simple, Slow, Small, Smile: ささやかに、ゆっくり、ほどほどに、にこにここと」。



bible ビブアレ
 プランシェリーを併置したオーベルジュ。
 石窯で焼き上げ、おハシと菓子の
 表才たっぷりの料理も楽しめる！

MERLE ×1111
 季節の素材を大事にした
 フランス伝統菓子は絶品！
 カフェも
 あり。



Gosh コーヒー
 自家焙煎珈琲の
 お店。ゆっくりに
 コーヒーを味わって！
 テイクアウトの人も
 大歓迎！！

